

4. 離婚等で別れて暮らす親子の面会交流の支援活動

グループ名 札幌おやこ面会交流の会

代表者 内田 信也

① 活動の目的

離婚や別居で別れて暮らしている親と子の面会交流を子どもの健全な成長と発達の視点に立って支援しています。

会の基本理念としては、・子ども中心の支援 ・父母による自主的な面会交流実施への援助を掲げています。

② 活動概要

当会は、離婚等で別れて暮らす親子の面会交流を、父母が自分たちで実施できない場合にその実施を支援するボランティア団体です。設立以来今年で節目の記念すべき10年になりました。

会員は、66名、平均年齢は70歳超で、元、現調停委員、元家庭裁判所調査官、弁護士等で構成し、すべて手作り、無報酬で活動しています。

活動内容としては、大きく次の2点です。

・面会交流の支援活動

種類＝受渡し支援と連絡調整支援 ほとんどが受渡し支援

支援期間＝原則1年間、更新面接を経て更新可能、この更新は2回まで

支援頻度と支援時間＝月1回を限度、在室で2時間、外出で5時間を限度

→支援はほとんどが土曜、日曜に集中

・面会交流に関する研究、研修と啓発活動

年1回の講演会、自主勉強会、2か月ごとの事例検討会等と会報の発行等

今年度（H28.8～H29.7）実施した主な個々の活動内容は次のとおりです。

・総会 H28.8.21

・役員会 月1回で12回 運営方針・企画の決定

・講演会とパネルディスカッション H28.8.21 ※詳細後述

・研修会等 当会の自主勉強会 H29.1.13

他機関の研究会への参加 立命館大学二宮周平教授の「離婚後の親子

サポート」をテーマとした研究会に参加 H28.9.14

立命館大学シンポジウム「家事事件当事者による解

決と調停事件とメデイエーション」に参加 H29. 2. 11
研究発表等 「ケース研究」誌への「札幌おやこ面会交流の会の面
会交流支援の実情と課題」の研究発表、
「面会交流支援上の困難事例について」投稿

- ・ 定例事例検討会 隔月の6回開催 H28. 9、11月 H29. 1, 3, 5, 7月
- ・ 設立10周年記念行事に向けた活動

基本テーマを「広げよう子どもの笑顔と支援の輪」とし4部会を組織化
し活動

主な記念行事の計画

記念講演会 講師 社団法人家庭問題情報センター理事長
若林 昌子氏

記念祝賀会

パネルディスカッション

会報「ふぁみりんぐ」特別号の発行

- ・ 支援活動等

新受件数 17件

支援回数 受渡し支援 延べ263回、連絡調整支援 延べ22回

事務所当番 100回 (毎週 月、金 午後)

面接 事前面接 32人、更新時面接 24人

見学・相談 35件

終了件数 14件

※ 設立後支援総件数 91件、総終了件数 42件

現在支援総件数 49件

- ・ 広報・渉外

会報「ふぁみりんぐ」第7号 発行 H28. 10

関係機関からの見学 2件、15人

当会パンフの配布展示場の拡大

当会パンフ英語版の作成 H29. 3

同業支援機関との交流 H28. 11 H28. 12

朝日新聞の取材対応 H28. 12 →

大同生命助成金贈呈式参加 H28. 10

- ・ 親睦会 ハイキング、新年会等 3回



写真 (当会支援室等 賃借マンション 3LDK)



(支援室 1)



(支援室 2)



(面接室)



(事務室)

③ 助成金対象事業としてのフォーラム（講演会等）の開催

日 時 : H28.8.21 14:30~17:00

場 所 : 札幌市教育文化会館

参加者 : 50名

基調講演 :

講師 梶村太市 常葉大学法学部教授

演題 「子ども中心の面会交流を目指して

～面会交流の原則実施論と支援の在り方」

パネルディスカッション: パネリスト 梶村教授と当会会員3名

当会では、総会時に毎年法学者、臨床心理学者、面会交流支援機関の実務家等を招いて講演会を開催してきました。

今回は、講師に裁判官歴が長く弁護士でもある家事事件の第一人者である梶村太市教授をお招きし面会交流をめぐる諸問題について基調講演をしていただき、その後今話題になっている論争のある原則的实施論やそれが支援に及ぼす影響等をテーマにパネルディスカッションをおこないました。先生は、原則的实施論の批判論者として有名であり、今回のシンポジウムは本邦初と思われ白熱した議論が展開されました。

子どもの最善の利益の確保をはかり、あるべき子ども中心の面会交流と支援のあり方について一層の理解を深められたと思っています。

有意義な講演会をご支援いただいた貴事業団に心から感謝申し上げます。



(フォーラム案内パンフ)



(会報に掲載 フォーラム要旨)



(基調講演会)



(パネルディスカッション)

④ 決算報告書

収入	大同生命厚生事業団助成金	130,000円
支出		円
	講師謝金・旅費・宿泊代 一式	150,000円
	会場費 賃料	14,500円
	〃 備品、レンタル代	5,400円
		円
		円
	合計	169,900円

※不足分は自己資金で補いました。

⑤ まとめ

本年、当会は設立 10 周年を迎えました。すべての子どもは、これからの日本を支え発展させていく原動力であり希望です。親の離婚に直面した子どもが未来に向かって健全な成長発達が遂げられるよう、面会交流の支援団体として、子どもの最善の利益を目指し、子ども中心の面会交流を実現していきたいと思ひます。子どもの輝く笑顔を追い求め、面会交流の輪が広がるよう努める所存です。

皆さまの一層のご支援、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。